

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
セフピラミドナトリウム	サンセファール静注用1g	アステラス製薬（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; セフピラミドに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く）</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>通常、成人にはセフピラミドナトリウムとして1日1～2通常、成人にはセフピラミドナトリウムとして1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて1日量を4g（力価）まで増量し、2～3回に分割投与する。</p> <p>通常、小児にはセフピラミドナトリウムとして1日30～80mg（力価）/kgを2～3回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて1日量を150mg（力価）/kgまで増量し、2～3回に分割投与する。</p> <p>静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。また、点滴静注に際しては糖液、電解質液、アミノ酸製剤等の補液に加えて30～60分かけて静脈内に点滴静注することもできる。</p>
セフピロム	ケイテン静注用0.5g 等	日本ウインスロップ製薬（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt; セフピロムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、エンテロコッカス・フェッカーリス、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎</p>	<p>通常、成人にはセフピロム硫酸塩として1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて1日4g（力価）まで増量し、2～4回に分割投与する。</p> <p>通常、小児にはセフピロム硫酸塩として1日60～80mg（力価）/kgを3～4回に分けて静脈内に注射するが、年齢・症状に応じ適宜増減する。なお、難治性又は重症感染症には160mg（力価）/kgまで増量し、3～4回に分割投与するが、化膿性髄膜炎には1日200mg（力価）/kgまで増量できる。</p> <p>静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。また、点滴静注に際しては、日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液又は補液に溶解する。</p>
セフミノクスナトリウム	メイセリン静注用1g	明治製薬（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; セフミノクスに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く）</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、扁桃炎（扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎</p>	<p>通常、成人には1日2g(力価)を2回に分割し、静脈内注射又は点滴静注する。小児には1回20mg(力価)/kgを1日3～4回静脈内注射又は点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、敗血症、難治性又は重症感染症には、成人では1日6g(力価)まで増量し3～4回に分割して投与する。静脈内注射の場合は、1g(力価)当り20mLの注射用水、糖液又は電解質溶液に溶解して緩徐に注射する。また、点滴静注の場合は、1g(力価)当り100～500mLの糖液又は電解質溶液に溶解して1～2時間かけて静注する。</p>
セフメタゾール	セフメタゾン静注用0.25g 等	第一三共（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt; セフメタゾールに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く）</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>通常成人には、1日1～2g(力価)を2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。</p> <p>通常小児には、1日25～100mg(力価)/kgを2～4回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。</p> <p>なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、1日量を成人では4g(力価)、小児では150mg(力価)/kgまで増量し、2～4回に分割投与する。</p> <p>静脈内注射に際しては、本剤1g(力価)当たり、日本薬局方注射用水、日本薬局方生理食塩液又は日本薬局方ブドウ糖注射液10mLに溶解し、緩徐に投与する。なお、本剤は補液に加えて点滴静注することもできる。また、キット点滴静注用1gは、用時添付の生理食塩液に溶解し、緩徐に投与する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
フロモキシセフナトリウム	フルマリン静注用0.5g 等	塩野義製薬（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      フロモキシセフに感性のブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く）</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症，感染性心内膜炎                      外傷・熱傷及び手術創等の二次感染                      咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，慢性呼吸器病変の二次感染                      膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症）                      尿道炎                      腹膜炎，腹腔内膿瘍                      胆嚢炎，胆管炎                      バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎                      中耳炎，副鼻腔炎</p>	<p>1. フルマリン静注用0.5g及びフルマリン静注用1g                      通常，成人にはフロモキシセフナトリウムとして1日1～2g（力価）を2回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。                      通常，小児には1日60～80mg（力価）/kgを3～4回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。                      通常，未熟児，新生児には1回20mg（力価）/kgを生後3日までは1日2～3回，4日以降は，1日3～4回静脈内注射又は点滴静注する。                      なお，年齢，症状に応じて適宜増減するが，難治性又は重症感染症には成人では1日4g（力価）まで増量し，2～4回に分割投与する。また未熟児，新生児，小児では1日150mg（力価）/kgまで増量し，3～4回に分割投与する。</p> <p>2. フルマリンキット静注用1g                      通常，成人にはフロモキシセフナトリウムとして1日1～2g（力価）を2回に分割して点滴静注する。                      通常，小児には1日60～80mg（力価）/kgを3～4回に分割して点滴静注する。                      通常，未熟児，新生児には1回20mg（力価）/kgを生後3日までは1日2～3回，4日以降は，1日3～4回点滴静注する。                      なお，年齢，症状に応じて適宜増減するが，難治性又は重症感染症には成人では1日4g（力価）まで増量し，2～4回に分割投与する。また未熟児，新生児，小児では1日150mg（力価）/kgまで増量し，3～4回に分割投与する。</p>
ラタモキシセフナトリウム	シオマリン静注用1g	塩野義製薬（株）	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ラタモキシセフに感性の大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く）</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症                      急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染                      膀胱炎，腎盂腎炎                      腹膜炎                      胆嚢炎，胆管炎，肝膿瘍                      子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎                      化膿性髄膜炎</p>	<p>通常，成人には1日1～2g（力価）を2回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。                      通常，小児には1日40～80mg（力価）/kgを2～4回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。                      なお，年齢，症状に応じて適宜増減するが，難治性又は重症感染症には，成人では1日4g（力価），小児では1日150mg（力価）/kgまで増量し，2～4回に分割投与する。</p>
セフスロジンナトリウム	タケスリン静注用0.5g 等	武田薬品工業（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      セフスロジンに感性の緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症                      外傷・熱傷及び手術創等の二次感染                      急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染                      膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症）                      腹膜炎                      角膜炎（角膜潰瘍を含む）                      中耳炎</p>	<p>通常，成人にはセフスロジンナトリウムとして1日0.5～1g（力価）を，重症感染症には2g（力価）を2～4回に分け，また，小児にはセフスロジンナトリウムとして1日60～100mg（力価）/kgを3～4回に分けて静脈内に注射する。                      なお，年齢，症状に応じ適宜増減するが，成人の敗血症には1日4g（力価）まで，小児の重症難治性感染症には1日200mg（力価）/kgまで増量することができる。                      静脈内注射に際しては，日局「生理食塩液」又は日局「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。                      また，成人の場合は1回用量0.25～2g（力価）を糖液，電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて30分～2時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。                      なお，小児の場合は上記投与量を考慮した1回用量を補液に加えて30分～1時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
セフメノキシム塩酸塩	ベストコール静注用0.5g 等	武田薬品工業（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt; セフメノキシムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染 膀胱炎、腎盂腎炎 腹膜炎 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎 化膿性髄膜炎</p>	<p>&lt;成人&gt; 通常、セフメノキシム塩酸塩として1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて1日4g（力価）まで増量し、2～4回に分割投与する。</p> <p>&lt;小児&gt; 通常、セフメノキシム塩酸塩として1日40～80mg（力価）/kgを3～4回に分けて静脈内に注射する。なお、年齢、症状に応じ、適宜増減するが、難治性又は重症感染症には1日160mg（力価）/kgまで増量し、3～4回に分割投与するが、化膿性髄膜炎には1日200mg（力価）/kgまで増量できる。</p> <p>静脈内注射に際しては、日本薬局方「注射用水」、日本薬局方「生理食塩液」又は日本薬局方「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人では本剤の1回用量0.5～2g（力価）を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて、30分～2時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 小児では上記投与量を考慮した1回用量を補液に加えて、30分～1時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。</p>
アズトレオナム	アザクタム注射用0.5g 等	エーザイ（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性の淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、尿道炎、子宮頸管炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎</p>	<p>通常、成人には、1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内注射、点滴静注又は筋肉内注射する。ただし、通常、淋菌感染症及び子宮頸管炎には、1日1回1～2g（力価）を筋肉内注射又は静脈内注射する。</p> <p>通常、小児には、1日40～80mg（力価）/kgを2～4回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。</p> <p>なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には、成人では1日量4g（力価）まで増量し2～4回に分けて投与し、小児では1日量150mg（力価）/kgまで増量し3～4回に分けて投与する。</p> <p>通常、未熟児、新生児には、1回20mg（力価）/kgを生後3日までは1日2回、4日以降は1日2～3回静脈内注射又は点滴静注する。</p>
カルモナムナトリウム	アマスリン静注用1g 等	武田薬品工業（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性の淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、尿道炎、子宮頸管炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎</p>	<p>通常成人にはイミペネムとして、1日0.5～1.0g（力価）を2～3回に分割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。</p> <p>小児には1日30～80mg（力価）/kgを3～4回に分割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。</p> <p>なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、成人で1日2g（力価）まで、小児で1日100mg（力価）/kgまで増量することができる。</p>
イミペネム/シラスタチンナトリウム	チエナム点滴静注用0.25g 等	万有製薬（株） 等	<p>&lt;適応菌種&gt; イミペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼内炎（全眼球炎を含む）</p>	<p>通常成人にはイミペネムとして、1日0.5～1.0g（力価）を2～3回に分割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。</p> <p>小児には1日30～80mg（力価）/kgを3～4回に分割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。</p> <p>なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、成人で1日2g（力価）まで、小児で1日100mg（力価）/kgまで増量することができる。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
ドリペネム水和物	フィニバックス点滴用0.25g等	塩野義製薬（株）等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ドリペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属（エンテロコッカス・フェシウムを除く）、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、感染性心内膜炎                      深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎                      外傷・熱傷及び手術創等の二次感染                      骨髄炎、関節炎                      咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）                      肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染                      複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）                      腹膜炎、腹腔内膿瘍                      胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍                      子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎                      眼窩感染、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼内炎（全眼球炎を含む）                      中耳炎                      顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>通常、成人にはドリペネムとして1回0.25g（力価）を1日2回又は3回、30～60分かけて点滴静注する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、投与量の上限は、1回量として0.5g（力価）、1日量として1.5g（力価）までとする。</p>
パニペネム/ベタミプロン	カルベニン点滴用0.25g 等	第一三共（株）等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      パニペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、感染性心内膜炎、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼窩感染、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>成人には通常、パニペネムとして1日1g（力価）を2回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症又は難治性感染症には、1日2g（力価）まで増量し2回に分割し投与することができる。ただし、成人に1回1g（力価）投与する場合は60分以上かけて投与すること。                      小児には通常、パニペネムとして1日30～60mg（力価）/kgを3回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症又は難治性感染症には、1日100mg（力価）/kgまで増量し3～4回に分割して投与できる。ただし、投与量の上限は1日2g（力価）までとする。</p>
ビアペネム	オメガシン点滴用0.3g	明治製菓（株）	<p>&lt;適応菌種&gt;                      本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属（エンテロコッカス・フェシウムを除く）、モラクセラ属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、フソバクテリウム属</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、子宮旁結合織炎</p>	<p>通常、成人にはビアペネムとして1日0.6g（力価）を2回に分割し、30～60分かけて点滴静脈内注射する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。ただし、投与量の上限は1日1.2g（力価）までとする。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
メロペネム水和物	メロペン点滴用バイアル 0.25g 等	大日本住友製薬(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; メロペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、髄膜炎菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む)、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼内炎(全眼球炎を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>本剤の使用に際しては、投与開始後3日を目安としてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。</p> <p>さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。</p> <p>通常成人にはメロペネムとして、1日0.5～1g(力価)を2～3回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1日2g(力価)まで増量することができる。</p> <p>通常小児にはメロペネムとして、1日30～60mg(力価)/kgを3回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1日120mg(力価)/kgまで増量することができる。ただし、成人における1日最大用量2g(力価)を超えないこととする。</p>
アミカシン硫酸塩	硫酸アミカシン注射液「萬有」 100mg 等	日医工(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; アミカシンに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>[筋肉内投与の場合] 通常、成人1回アミカシン硫酸塩として100～200mg(力価)を1日1～2回筋肉内投与する。小児は、アミカシン硫酸塩として1日4～8mg(力価)/kgとし、1日1～2回筋肉内投与する。</p> <p>なお、年齢及び症状により適宜増減する。</p> <p>筋肉内投与の場合には1瓶に日局生理食塩液又は日局注射用水1～2mLを加えて溶解する。</p> <p>[点滴静脈内投与の場合] 通常、成人1回アミカシン硫酸塩として100～200mg(力価)を、1日2回点滴静脈内投与する。小児はアミカシン硫酸塩として1日4～8mg(力価)/kgとし、1日2回点滴静脈内投与する。また、新生児(未熟児を含む)は、1回アミカシン硫酸塩として6mg(力価)/kgを、1日2回点滴静脈内投与する。</p> <p>なお、年齢、体重及び症状により適宜増減する。</p> <p>点滴静脈内投与の場合には、通常100～500mLの補液中に100～200mg(力価)の割合で溶解し、30分～1時間かけて投与すること。</p>
アルベカシン硫酸塩	ハベカシン注射液25mg 等	明治製菓(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; アルベカシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎</p>	<p>&lt;成人への投与&gt; 通常、成人にはアルベカシン硫酸塩として、1日1回150～200mg(力価)を30分～2時間かけて点滴静注する。必要に応じ、1日150～200mg(力価)を2回に分けて点滴静注することもできる。また、静脈内投与が困難な場合、アルベカシン硫酸塩として、1日150～200mg(力価)を1回又は2回に分けて筋肉内注射することもできる。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p> <p>&lt;小児への投与&gt; 通常、小児にはアルベカシン硫酸塩として、1日1回4～6mg(力価)/kgを30分かけて点滴静注する。必要に応じ、1日4～6mg(力価)/kgを2回に分けて点滴静注することもできる。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>
イセパマイシン硫酸塩	イセパシン注射液200 等	シェリング・プラウ(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; イセパマイシンに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人ではイセパマイシン硫酸塩として1日400mg(力価)を1～2回に分け筋肉内注射又は点滴静注する。</p> <p>点滴静注においては以下のとおりとする。</p> <p>1日1回投与の場合：1時間かけて注入する。</p> <p>1日2回投与の場合：30分～1時間かけて注入する。</p> <p>なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
カナマイシン硫酸塩	硫酸カナマイシン注射液1000mg「明治」等	明治製菓（株）	<p>&lt;適応菌種&gt;                      カナマイシンに感性的のブドウ球菌属、肺炎球菌、淋菌、結核菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、百日咳菌</p> <p>&lt;適応症&gt;                      表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、子宮付属器炎、中耳炎、百日咳、肺結核及びその他の結核症</p>	<p>[肺結核及びその他の結核症に対して使用する場合]                      カナマイシンとして、通常成人1日2g（力価）を朝夕1g（力価）ずつ2回筋肉内注射し、週2日使用するか、または1日1g（力価）ずつ週3日使用する。                      また必要に応じて局所に投与する。                      ただし、高齢者（60歳以上）には1回0.5～0.75g（力価）とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあつては適宜減量する。                      なお、原則として他の抗結核薬と併用する。</p> <p>[その他の場合]                      カナマイシンとして、通常成人1日1～2g（力価）を、小児には1日体重1kgあたり30～50mg（力価）を1～2回に分けて、筋肉内注射する。                      また必要に応じて局所に投与する。                      なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタシン注10 等	シュering・プラウ（株）等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ゲンタマイシンに感性的のブドウ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎</p>	<p>通常、成人ではゲンタマイシン硫酸塩として1日80～120mg（力価）を2～3回に分割して筋肉内注射または点滴静注する。小児では1回0.4～0.8mg（力価）/kgを1日2～3回筋肉内注射する。                      点滴静注においては30分～2時間かけて注入する。                      なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
シソマイシン硫酸塩	シセプチン注射液50mg「承認整理済」	シュering・プラウ（株）	<p>&lt;適応菌種&gt;                      シソマイシンに感性的の黄色ブドウ球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人では日局硫酸シソマイシンとして1日100mg（力価）を2回に分割し、筋肉内注射又は点滴静注する。点滴静注においては1～2時間かけて注入する。                      また、症状により1日150mg（力価）まで増量し、2～3回に分割して筋肉内注射又は点滴静注することができる。</p>
ジベカシン硫酸塩	パニマイシン注射液50mg 等	明治製菓（株）	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ジベカシンに感性的の黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎</p>	<p>[筋注の場合]                      通常、成人にはジベカシンとして、1日量100mg（力価）を1～2回に分け、小児にはジベカシンとして、1日量1～2mg（力価）/kgを1～2回に分け、それぞれ筋肉内注射する。</p> <p>[点滴静注の場合]                      通常、成人にジベカシンとして、1日量100mg（力価）を2回に分け、100～300mLの補液で希釈し、30分～1時間かけて点滴静注する。</p> <p>なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。</p>
ストレプトマイシン硫酸塩	硫酸ストレプトマイシン注射液1g「明治」	明治製菓（株）	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ストレプトマイシンに感性的の結核菌、ペスト菌、野兔病菌、ワイル病レプトスピラ</p> <p>&lt;適応症&gt;                      感染性心内膜炎（ベンジルペニシリン又はアンピシリンと併用の場合に限る）、ペスト、野兔病、肺結核及びその他の結核症、ワイル病</p>	<p>[肺結核及びその他の結核症に対して使用する場合]                      ストレプトマイシンとして、通常成人1日1g（力価）を筋肉内注射する。週2～3日、あるいははじめの1～3ヵ月は毎日、その後週2日投与する。また必要に応じて局所に投与する。                      ただし、高齢者（60歳以上）には1回0.5～0.75g（力価）とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあつては適宜減量する。                      なお、原則として他の抗結核薬と併用する。</p> <p>[その他の場合]                      ストレプトマイシンとして、通常成人1日1～2g（力価）を1～2回に分けて筋肉内注射する。                      なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
トブラマイシン	トブラシン注60mg 等	東和薬品（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性の大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>&lt;成人&gt; 通常、トブラマイシンとして、膀胱炎および腎盂腎炎には、1日120mg（力価）を2回に、その他の感染症には、1日180mg（力価）を2～3回に、それぞれ分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～2時間かけて注入する。 1回90mg投与の場合には、1時間以上かけて注入することが望ましい。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p> <p>&lt;小児&gt; トブラマイシンとして、1日3mg（力価）/kgを2～3回に分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～2時間かけて注入する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>
ネチルマイシン硫酸塩	ベクタシン注射液「承認整理済み」	シェリング・プラウ（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; ネチルマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、肛門周囲膿瘍、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人に硫酸ネチルマイシンとして1日150～200mg（力価）を2回に分割し、筋肉内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
ベカナマイシン硫酸塩	カネンドマイシン筋注200mg	明治製菓（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; ベカナマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、エンテロコッカス・フェッカーリス、大腸菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、涙嚢炎、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎</p>	<p>通常、成人は1日量ベカナマイシン硫酸塩として400～600mg（力価）を2～3回に分けて筋肉内注射する。 また、小児・乳幼児は1日量体重1kg当りベカナマイシン硫酸塩として10～20mg（力価）を2回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。</p>
リボスタマイシン硫酸塩	ビスタマイシン筋注500mg等	明治製菓（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; リボスタマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、胆嚢炎、涙嚢炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、顎炎</p>	<p>通常、成人はリボスタマイシンとして1日量1.0g（力価）を1～2回に分け、小児・乳幼児はリボスタマイシンとして1日量20～40mg（力価）/kgを1～2回に分け、それぞれ筋肉内に注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
アストロマイシン	注射用フォーチミシン「承認整理済み」	協和発酵キリン（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; アストロマイシンに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・インコンスタンス</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人ではアストロマイシン硫酸塩として1日400mg（力価）を2回に分割し、筋肉内投与または点滴静注する。 点滴静注においては30分～1時間かけて注入する。 なお、症状により適宜増減する。</p>
マイクロマイシン硫酸塩	サガミシン注「承認整理済み」	協和発酵キリン（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; マイクロマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人に硫酸マイクロマイシンとして、腎盂腎炎および膀胱炎には、1回120mg（力価）を1日2回、その他の感染症には、1回60mg（力価）を1日2～3回筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～1時間かけて注入する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
バンコマイシン塩酸塩	塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g 等	塩野義製薬（株）等	1. <適応菌種> バンコマイシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、腹膜炎、化膿性髄膜炎 2. <適応菌種> バンコマイシンに感性のペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP） <適応症> 敗血症、肺炎、化膿性髄膜炎	通常、成人にはバンコマイシン塩酸塩として1日2g（力価）を1回0.5g（力価）6時間ごと又は1回1g（力価）12時間ごとに分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 高齢者には、1回0.5g（力価）12時間ごと又は1回1g（力価）24時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 小児、乳児には、1日40mg（力価）/kgを2～4回に分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 新生児には、1回投与量を10～15mg（力価）/kgとし、生後1週までの新生児に対しては12時間ごと、生後1ヵ月までの新生児に対しては8時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。
テイコプラニン	注射用タゴシッド200mg 等	サノフィ・アベンティス（株）等	<適応菌種> 本剤に感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） <適応症> 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染	通常、成人にはテイコプラニンとして初日400mg（力価）又は800mg（力価）を2回に分け、以後1日1回200mg（力価）又は400mg（力価）を30分以上かけて点滴静注する。敗血症には、初日800mg（力価）を2回に分け、以後1日1回400mg（力価）を30分以上かけて点滴静注する。 通常、乳児、幼児又は小児にはテイコプラニンとして10mg（力価）/kgを12時間間隔で3回、以後6～10mg（力価）/kg（敗血症などの重症感染症では10mg（力価）/kg）を24時間ごとに30分以上かけて点滴静注する。また、新生児（低出生体重児を含む）にはテイコプラニンとして初回のみ16mg（力価）/kgを、以後8mg（力価）/kgを24時間ごとに30分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン点滴静注用100mg 等	ワイス（株）等	<適応菌種> ミノサイクリンに感性の黄色ブドウ球菌、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、インフルエンザ菌、シュードモナス・フルオレッセンス、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、フラボバクテリウム属、レジオネラ・ニューモフィラ、リケッチア属（オリエンチア・ツツガムシ）、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） <適応症> 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、炭疽、つつが虫病、オウム病	*点滴静脈内注射は、経口投与不能の患者及び救急の場合に行い、経口投与が可能になれば経口用剤に切り替える。 通常成人には、初回ミノサイクリン塩酸塩100～200mg（力価）、以後12時間ないし24時間ごとに100mg（力価）を補液に溶かし、30分～2時間かけて点滴静脈内注射する。 <注射液調製法> 本剤100mg（力価）及び200mg（力価）当たり100～500mLの糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などに溶解する。ただし、注射用水は等張とらないので使用しないこと。
ラクトビオン酸エリスロマイシン	エリスロシン点滴静注用500mg 等	アボットジャパン（株）	<適応菌種> エリスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌 <適応症> 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、ジフテリア	通常、成人にはエリスロマイシンとして1日600～1,500mg（力価）を2～3回に分けて1回2時間以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。
酒石酸キタサマイシン	静注用ロイコマイシン「承認整理済み」	旭化成ファーマ（株）	<適応菌種> キタサマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ属 <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、肺炎、膿胸、胆嚢炎、猩紅熱、ジフテリア	通常、成人には酒石酸キタサマイシンとして1回200mg（力価）を1日2回、少なくとも5分以上かけて徐々に静脈内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。



調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
シプロフロキサシン	シプロキサシ注200mg 等	バイエル薬品（株）等	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、緑膿菌、レジオネラ属 <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、炭疽	シプロフロキサシンとして、通常、成人には1回300mgを1日2回点滴静注する。 原則として、点滴静注に際しては、生理食塩液、ブドウ糖注射液又は補液で希釈して、1時間かけて投与する（30分以内の点滴静注は避ける）。
メシル酸パズフロキサシン	パシル点滴静注液300mg 等	富山化学工業（株）等	<適応菌種> パズフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(肺炎球菌を除く)、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンス属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、レジオネラ属、バクテロイデス属、プレボテラ属 <適応症> 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染 複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症) 腹膜炎、腹腔内膿瘍 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 子宮付属器炎、子宮旁結合織炎	通常、成人にはパズフロキサシンとして1日1000mgを2回に分けて点滴静注する。なお、年齢、症状に応じ、1日600mgを2回に分けて点滴静注するなど、減量すること。 点滴静注に際しては、30分～1時間かけて投与すること。
クリンダマイシンリン酸エステル	ダラシンS注射液300mg 等	ファイザー（株）等	<適応菌種> クリンダマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、マイコプラズマ属 <適応症> 敗血症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎	[点滴静脈内注射] 通常成人には、クリンダマイシンとして1日600～1,200mg（力価）を2～4回に分けて点滴静注する。 通常小児には、クリンダマイシンとして1日15～25mg（力価）/kgを3～4回に分けて点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では1日2,400mg（力価）まで増量し、2～4回に分けて投与する。 また、小児では1日40mg（力価）/kgまで増量し、3～4回に分けて投与する。 点滴静注に際しては、本剤300～600mg（力価）あたり100～250mLの日局5%ブドウ糖注射液、日局生理食塩液又はアミノ酸製剤等の補液に溶解し、30分～1時間かけて投与する。 [筋肉内注射] 通常成人には、クリンダマイシンとして1日600～1,200mg（力価）を2～4回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。
コハク酸クロラムフェニコールナトリウム	クロロマイセチンサクシネート	第一三共（株）	<適応菌種> クロラムフェニコールに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兔病菌、ガス壊疽菌群、リケッチア属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） <適応症> 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽種、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、子宮内感染、子宮付属器炎、化膿性髄膜炎、涙嚢炎、角膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、百日咳、野兔病、ガス壊疽、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病	クロラムフェニコールとして、通常成人1回0.5～1g（力価）を1日2回静脈内注射する。小児には、1回体重1kgあたり15～25mg（力価）を1日2回静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
スルファジメトキシム	アプシード静注500mg 等	第一三共（株）等	<適応菌種> 本剤に感性の髄膜炎菌、大腸菌 <適応症> 膀胱炎、腎盂腎炎、化膿性髄膜炎	通常成人、スルファジメトキシムとして、初日1.0～2.0g(10～20mL)、2日目以降は0.5～1.0g(5～10mL)を1日1回静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。
スルファモノメトキシム	ダイメトン注「承認整理済み」	第一三共（株）	<適応菌種> 本剤に感性の大腸菌 <適応症> 膀胱炎、腎盂腎炎	通常成人、スルファモノメトキシムとして、初日量1～2g（10～20mL）を1～2回に、2日目以降1日0.5～1g（5～10mL）を1～2回に分けて静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。
セフペラゾンナトリウム	ケイペラゾン静注用1g 等	科研製薬（株）等	<適応菌種> セフペラゾンに感性の肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属 <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎 肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染 膀胱炎、腎盂腎炎 腹膜炎 胆嚢炎、胆管炎 バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎	セフペラゾンナトリウムとして、通常成人には1日1～2g（力価）を、2回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。小児には通常1日40～80mg（力価）/kgを2～4回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には成人では1日4g（力価）、小児では1日120mg（力価）/kgまで増量することができる。 静脈内注射の際には、日局注射用水、日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液に溶解し緩徐に注射する。 また補液に加えて点滴静注することもできる。
ホスホマイシンナトリウム	ホスミンS静注用0.5g 等	明治製菓（株）等	<適応菌種> ホスホマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌 <適応症> 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎	[点滴静脈内注射] 通常、成人にはホスホマイシンとして1日2～4g（力価）、また小児には1日100～200mg（力価）/kgを2回に分け、補液100～500mLに溶解して、1～2時間かけて静脈内に点滴注射する。 [静脈内注射] 通常、成人にはホスホマイシンとして1日2～4g（力価）、また小児には1日100～200mg（力価）/kgを2～4回に分け、5分以上かけてゆっくり静脈内に注射する。溶解には日局注射用水又は日局ブドウ糖注射液を用い、本剤1～2g（力価）を20mLに溶解する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。
リネゾリド	ザイボックス注射液600mg	ファイザー（株）	1.<適応菌種> 本剤に感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） <適応症> 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎 2.<適応菌種> 本剤に感性のバンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム <適応症> 各種感染症	通常、成人にはリネゾリドとして1日1200mgを2回に分け、1回600mgを12時間ごとに、それぞれ30分～2時間かけて点滴静注する。